

金成有壁地区にて、初めて「酒米の田植えボランティア」が行われました！

当事務所は、中山間地域等の農村集落の活性化を図ることを目的に、農作業のお手伝いをする「援農ボランティア」や都市と農村との交流を行う組織の実施体制づくりを支援しています。

令和元年5月26日（日）、栗原市金成有壁地区で「酒米の田植えボランティア」が行われました。この取り組みは地元の有壁農地整備推進委員会が中心となって企画したもので、栗原市・一関市から一般市民や小・中学生など31人がボランティアとして参加しました。当事務所はNPO法人めぐりネット21と連携して、地元農家とボランティアの参加者との調整役という立場でこの取り組みを支援しました。

有壁地区は宿場町として栄えた歴史のある地区ですが、農地は急傾斜にあり農作業に多大な労力を要してきました。また少子高齢化が進んでおり、地域の繋がり維持が課題となっていました。そこで有壁農地整備推進委員会は地元の萩野酒造と連携し、地区の酒米を使った酒造りによって地域の活性化を図るべく、今回初めて援農ボランティアの受け入れに取り組みました。

ボランティアの参加者は2班に分かれて、交代で手植え作業と機械植え作業を手伝いました。真夏のような暑さでしたが、手植え・機械植え作業ともに和気あいあいとした雰囲気なかで行われ、参加者からは「初めて田植えのお手伝いできて楽しかった」「自分で植えたお米からお酒が生まれると思うと、とても楽しみ。また来たい」という感想をいただくことができました。



今回ボランティアの参加者にはアンケートを記入いただいており、その結果を踏まえ、今後の取り組みについて意見交換を行う予定です。当事務所は、今後も栗原管内における農村集落の活性化に向けて積極的に支援して参ります。